

# 松進タイムズ

発行 「松進」  
平成31年 2月



松進HP

## 「松進」はこんな塾です

1978年創立以来、今日までの41年間、数千人に及ぶ学生たちを指導してきた「松進」。上伊那郡下で一番歴史ある塾「松進」の特徴の一部をお伝えします。

## ■アルバイト講師がいません

全員が専任講師（正規職員）という塾は珍しいと言われます。

塾長に鍛えられた講師陣。みんな仕事に誇りと責任を持って取り組んでいます。



講師のみなです

## ■伸ばす具体策を知っている塾

松進は、ただ教えているだけの塾ではありません。学力を伸ばすための大切な事を教えています。



- 一、 伸びる学習方法を伝授。
- 一、 何をすればよいか個々に対応。
- 一、 集中して勉強する方法。
- 一、 時間を十分取って学習する。

## ■他にもたくさん

- ・ 新聞「松進タイムズ」を毎月発行塾での子供たちの様子、実施したことなどをお知らせしています。
- ・ 新聞を毎月作っている塾は近隣にはないと思います。
- ・ ブログ 塾の子供たちの様子を中心に先生たちが日々綴っています。
- ・ 進路など様々な相談に対応
- ・ 実験大会・大学見学ツアー
- ・ 高校受験、大学受験進路セミナー・合格祝賀会 他



新年度生、受付開始！

## 大学センター試験終了

平成最後のセンター試験が終わりました。

英語リスニングが半年で25点アップした学生や、生物、国語などで多数の学生が得点率90%を達成するなど、松進生たちは頑張りました。自己採点した結果を踏まえ、試験後に個人面接を実施。

最善の進路選択ができるようにアドバイスしました。

努力が実を結び、満面の笑みを手中にするまでであと少し。私たちは最後まで全力で応援します。



## ガンバリ、受験生!!



## 受験への道へ 知って得するセミナー開催

◆ 高校セミナー「ザ・大学入試」  
3月19日(火)  
場所 伊那市「いなっせ」  
対象 高校生(現高1・高2)

### 内容

- ・ 推薦? 一般入試? 私はどう?
- ・ 知識活用問題はこう攻略する
- ・ ここが違う! 失敗する(伸びない)学生と成功する(伸びる)学生
- ・ 注意! 高校で違う推薦入試希望者への対応
- ・ 大学入試のおトク情報 他



◆ 中学セミナー「ザ・高校入試」  
3月20日(水)

場所 長野県伊那文化会館  
対象 中学2年生とその保護者

### 内容

- ・ 受験までの流れを徹底解剖
- ・ 高校別合格ボーダーライン
- ・ 高校入試問題への対策 他



## 松進関係者以外の方へ

どなたでも参加できます。聴講をご希望の方は松進各教室までご連絡ください。

## 中3「入試直前特訓」開始

高校入試後期選抜まであと1ヶ月あまり。中学3年生に入試直前特訓を行い、入試傾向に馴れたり総復習を行います。

昨年の暮れから学校帰りに塾に来て夜9時過ぎまで自習をがんばる高校受験や大学受験の学生たちが増えてきました。



私たちも塾生が本番で力を出せるよう、最後までしっかりサポートしていきたいと思えます。

## ニコニコインタビュー

松進生たちに、最近、学校や家やその他であった印象深いことをインタビューしました。

◇ 友達4人で遊んだとき1人ずつお菓子をもちよったら4人それぞれカルピのポテチのコンソメ味を買ってきて笑った。  
(中3K・R)

◇ 友達と遊んでいたらこけて穴あきボンになった。  
(小3Y・T)



◇ お茶を回し飲みした妹がインフ

ルエンザだった。(高1K・A)

◇ もちを砂糖醤油で食べよつとしたら、砂糖じゃなくて塩だった。  
(中3K・K)



◇ 月曜だと思って学校に行く準備をしていたら日曜だった。  
(高1S・H)

◇ 飼っている犬にゲーム機を壊された。  
(中3M・R)



◇ 2つの神社で1回ずつおみくじを引いたら両方とも大吉だった。  
(中2Y・Y)

◇ 健康祈願に行った次の日に両親がインフルエンザになった。  
(高2Y・M)

## 松進のしえんしえ

講師控え室で授業前の準備をしていたらコンコンとドアをノックする音が。

「はい! どうぞ〜!」と心えたら

ギョ……

とドアがゆつくり開き、二人の中学生が隙間から顔だけ出してこっちを見ています。

「やあ! どうした? 質問?」  
「何かつと」  
「ん〜ん、質問じゃないけど〜」

「何か用?」  
「先生、ポッキー食べる?」  
「え! ポッキー? 食べる、食べる! (笑顔)」



「じゃあ、あげるね〜」  
「ケチな君たちが珍しいな〜」  
「ハイ! どうぞ〜」

と箱からポッキーを1本取り出してくれました。

「あ、ありがとう! (涙)」  
とパクパク食べ始めたところ

「あ〜! 食べた〜! プフプフ」  
「なに? どうした? (不安顔)」

「えつとね〜…それ、床に落としたヤツ〜! アハハハハ!」  
「せんせえ〜、引っかけた〜!」  
「ギョエ〜! どうせそんなことだろうと思っただ!」



二人はキャッキヤ言っ隣隣の教室に行ってしまう。

「ま〜ず、しょうがね〜ヤツたちだ」とフツツ言いながら準備をしぱらく続けているとドアがギョ〜。見るとまたあの二人。

ドアの隙間から真面目な顔をしてのぞいています。  
「あ! また来た」

「先生、さっきはごめんね〜。おわびに新しいポッキーを持ってきた」  
「気にしなくていいのに。でも、また落としたポッキーっちゅ〜ことはないよな。ギョロギョロ」

「そんなこと言うなら、私たち食べちゃうもんね〜」  
とくれようとしていたポッキーを二人でパクパク食べ始めました。

「あ、しまった! オしも食べる」  
すると二人が

「も〜、最初から食べたいって言えばいいのに。はい、どうぞ」  
「おう、なんて優しいの君たちは」

「あ〜! 食べた〜!」  
と、これ以上の喜びと幸せは無いという感じの二人のデカイ声。

「ギョ! なんかいやな予感」  
「プハ! それ、落としたポッキー〜また引っかけた〜! (爆)」  
「どうゆ〜ずらか (涙)」



あの子たちが卒業して何年も経つけど、絶対に力強く生きています。太鼓判! (笑)